⑪-2授業改善推進プラン（中間改善計画）

小23　町田市立鶴川第一小学校

学力調査等の状況

全国学力・学習状況調査の結果分析によると、国語、算数ともに平均正答率が全国、都の平均を下回る結果となり、国語科では全国平均に対してあと1.2%、都平均に対してあと3%、算数では全国平均に対してあと2.5%、都平均に対してあと7%という状況であった。昨年度に比べ、やや改善傾向が見られたが、全国平均、都平均に対して、上位層が薄く、下位層が厚い傾向が見られた。　国語科では、「複数の情報を整理して自分の考えをまとめたり書き表し方を工夫したりすること」（書くこと）に課題、算数科では、「図形を構成する要素などに着目して、図形の性質や計量について考察すること」（図形の分野、記述式の問題）に課題があることが分かった。

見えてきた課題

学校生活で「書く」場面は国語科だけに限らない。児童がもっと気軽に書き、書くこと自体が苦にならないようにしていく必要がある。国語科では言語活動の設定を、また、国語科に限らず、児童が思いや考えをもつ場面を大切にし、ICTの活用との上手な両立を図っていく必要がある。

算数科では、各学年での指導事項の定着をしっかりと行っていき、同時に、児童が本質的な理解ができるような指導を行っていく必要がある。年間指導計画や単元指導計画等における重点を見極め、見通しをもった指導を行っていきたい。

授業をデザインする8つの取組について

ICT機器の活用	映像資料や意見交流の場としてICT機器を取り入れていく。反復学習及び多様な表現方法を身に付けさせるために、ICT機器を活用する。
価値ある対話の共有	教師が児童の発言を積極的に価値付けし、発言のしやすい環境を構築し、また全体で考えを共有できる時間を設定する。
振り返りの設定	1時間の終わりや単元の終わりに振り返りの時間を設定し、学習時間の中でできるようになったこと、自分の成長などを見つめるようにする。

各教科における課題を改善するための指導の重点

	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
国語科	（低学年）読解のためのキーワードを丁寧にひろい、叙述に即して読み取らせる。 （中学年）叙述をもとに意見を考え、対話的な活動を取り入れることで、様々な意見との違いに気づかせる。 （高学年）叙述に即した根拠のある意見を考え、対話的な活動から意見を比較し、考えを深めさせる。	言語における知識理解を深めさせるため、毎日音読に取り組ませ、物語文や説明文を通して語彙を増やす。また、主語と述語の関係に気をつけて話すために、スピーチ活動を行う。 平仮名・片仮名・漢字を正しく読み書きできるように、毎日の宿題でも練習するようにし、ミニテスト等で定着を図る。	対話的な学習において、教科書の叙述や、筆者の意見などを根拠にして、自分の考えをもち、を述べさせるよう指導をしていく。 「なぜなら」や「〇〇だから、△△だと思います。」など、話型を提示し、自分の意見を話せるように学習を進める。	課題解決のために必要な情報を取捨選択する力を身に付けさせる。漢字や言葉の使い方など、言語の力の基礎基本を身に付ける。また、国語辞典や漢和辞典を活用し、語彙力を高める。 ペア・少人数による意見を発表する場や全体で意見を共有する時間を確保していく。
社会科	（中学年）　写真やグラフなどの読み取り方を重点的に指導することを通し、その背景にある人々の努力や工夫を読み取れるような授業展開をする。 （高学年）基本的な資料の読み取りや活用の視点ををしっかり押さえ、習慣化させる。	（中学年からのスタートに向けて現時点で意識する指導の重点）	写真やグラフなどから読み取ったことや考えたことを交流する場面を設定し、より多くの考えに触れることで、自分の考えや、テーマに沿った資料の読み方を学習していく。 写真資料を複数用意し、相違点を見つけることで疑問につなげていく。	写真や図・表、グラフの読み取りを何度も行い、基礎的・基本的な資料の読み方を習得させる。 導入時には社会事象についての疑問や知りたいことをもとに学習問題を立て、意欲的に学習に取り組めるようにする。また、話し合って課題解決をする場を設定する。
算数科	（低学年）具体物を操作することで、文で表した算数場面を理解させる。 （中学年）Navima等を活用しながら、四則計算の基礎を確実に身に付ける。複数の求め方を比べ、早く簡単に正確に求める方法を見つけるようにする。 （高学年）基本の計算問題でも時間のかかる児童がいるため、反復練習を積極的に取り入れる。	計算の場面や問題を正しく理解させるため、具体物やブロックの操作をさせる。基礎基本となる計算や、算数の知識を身に付けるため、既習事項を日常生活の中で積極的に使わせ、確実な力とさせる。毎日の宿題やデジタル教材への取り組み姿勢には個人差があるので、個別に指導し、どの子も取り組むようにさせる。 粘土や棒などで直方体や立方体をつくる活動を通して、頂点や辺の長さなどに興味をもたせる。	児童が苦手としている領域を担任で話し合いながら朝の時間や宿題などに東京ベーシックドリルを積極的に活用し、理解を深めていく。 反復練習することで四則計算を確実に習得できるようにする。 複数の解決法を知り、より正確に確実に計算できる方法を模索できるようにする。 身の回りにある図形の長さを実際に調べる活動を通して、実際の図形の大きさの感覚を捉える。	反復練習することで四則計算を確実に習得できるようにする。特に、図形について反復練習をしたり、教材を工夫し、理解を定着させる指導をする。 一人一台のタブレット端末を活用して、プログラミング的思考を育成する。
理科	（中学年）実験方法や考察の場面では、思いや考えを友達に伝えることができるようにする。 （高学年）生活経験から事物の現象について推察し、問題解決の能力を育成していく。	（中学年からのスタートに向けて現時点で意識する指導の重点）	児童同士が教え合う場を設定し、実験方法や結果、考察したことなどを説明することを通して理解を深めていく。 基礎的な実験の流れを身に付け、見通しをもって学習に取り組めるようにする。	生活経験と事物の現象を結び付け、問題解決のためにどのような実験・観察が必要か計画を立て、実験、観察し、考察を書くという学習の流れを定着させ、問題解決の能力を育成する。 一人一台のタブレット端末を活用して、プログラミング的思考を育成する。

⑪-2授業改善推進プラン（中間改善計画）

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
生活科	(低学年)鶴一小の特色ある活動を計画的に進め、地域の良さに気付けるような活動をする。 地域の自然や人に愛着をもち、それらとの関わりを大切にする。	各教科との学びと関連付けながら指導する。 学校探検や伝承遊びを通して低学年の交流を大切にしていく。 地域や自然に意欲的に関わることができるように、教材を工夫し、観察・校外学習などを計画的にすすめていく。		
音楽科	(低学年)身近な打楽器に触れ、表現する楽しさを味わわせる。 (中学年)さまざまな楽器に触れ、友達と合わせることを通して、合奏や合唱の良さがわかる授業を展開する。 (高学年)リコーダーをメインとして基本的な奏法を着実に身に付けさせるようにする。	身近な打楽器でのリズム遊び、鍵盤ハーモニカでの演奏活動を楽しめるようにする。 みんなで声を合わせて表現をする楽しさを味わわせる。	さまざまな楽器に触れ、友達と合わせることを通して、合奏や合唱の良さがわかる授業を展開する。	歌唱領域においては個別指導を充実させ、少しずつ調子外れを矯正させる。 器楽領域においては、リコーダーがメインの楽器となるので、基本的な奏法を着実に身に付けさせるようにする。また、鉄琴や木琴など児童が興味をもちやすい楽器については適宜用いることで、児童が楽しく音楽活動に参加できるように工夫する。
図画工作科	(低学年)ものを作ったり鑑賞したりする楽しさを感じることができる活動をする。 (中学年)さまざまな表現の仕方を知り、それを生かして作り出す喜びや楽しさを体験できるようにする。 (高学年)さまざまな材料、用具、技法を使い、満足感が味わえる題材を設定する。	自分の思いを描いたり作ったりして、のびのびと表すことができるようにする。 鑑賞活動を充実させ、友達の作品の良さや工夫したところに気付かせる。 友達の作品の良さや工夫したことを参考にする。	興味・関心に合わせて楽しさを味わえる題材を設定する。 さまざまな素材体験を通して、発想の広がりを図る。 用具の扱いを繰り返すことで、技能の定着を図る。 鑑賞の時間を増やし、友達の作品の良さに気付かせる。	題材の提示方法や参考資料を工夫し、発想をうながす。 鑑賞の機会を増やし互いに認め合えるなど、鑑賞方法を工夫する。感じたことや想像したことを言葉で表現させる。 発想を広げるため芸術作品や外国の作品など多くの資料を提示する。
家庭科	よりよい生活を目指すための家庭科における4つの視点を意識させ、生活の見方・考え方を働かせて学習に取り組ませる。 知識及び技能面では「初めて」から段階を経て徐々にステップアップし、裁縫・調理に関しての基礎基本が定着する活動をする。			学習したことを生かし、基礎的なものから応用的なものへ発展するように題材を組み立てる。 製作や実習の際、課題を自ら設定させ、課題解決をさせる。 裁縫や調理など学習したことを、家庭で実践できるよう協力をお願いし、学んだことを生活に生かせるようにする。
体育科	(低学年)安全にルールを守って、体を動かす楽しさを味わわせる。 (中学年)児童の能力に合わせ、多様な場を設定し、グループ活動を取り入れ、互いに技能向上できるような指導をする。 (高学年)伝え合い、教え合いができる場を設定し自分たちで学習を進めることができるように指導する。	安全にルールを守って、思い切り体を動かす経験をさせ、体を動かす楽しさを味わわせる。 体つくり運動領域を通して、さまざまな動きを体験させ運動感覚を養っていく。	縄跳びや固定遊具を積極的に授業に取り入れ、体力の向上につなげる。 ペア・グループの活動を取り入れ、主体的・対話的な活動になるようにする。 学習カードを使用し、毎時間自分にあっためあてをもって取り組めるようにする。	学習カードなど使用し、一人一人が自分に合っためあてをもてるように指導を工夫する。 伝え合い、教え合いができる場を設定し、自分たちで学習を進め、振り返りをすることで学びを深めることができるように指導する。
外国語科	中学年での外国語活動からの積み重ねを意識した授業を構成する。授業中に行うアクティビティを、読み・書きの時間とのバランスを取りながら進めて行く。 単元末テストだけでなく、パフォーマンステストを取り入れ、「使える英語」を目指す。			既習語句や表現を活用し、英語を聞くことの指導の工夫を行っていく。 その上で、アクティビティ、そして話したり、読んだり、書いたりといった時間をとる。 また、パフォーマンステストの前には、児童同士でお互いの英語を聞き合うといった、教え合いの場面も設定していく。

⑪-2授業改善推進プラン（中間改善計画）

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
特別の教科　道徳	道徳授業地区公開講座を設け、地域・家庭への啓発をする。 一人一人がよりよい生き方を目指すような指導をする。 様々な価値項目の教材を取り上げ、偏りなく指導していく。 ロールプレイや役割演技を積極的に取り入れることを通して、他者の立場に立って考えることができるようにする。 自分の日常生活の場面と結びつけて考えていけるような指導をする。	善悪の判断や決まりを守るなど、基本的な価値観を知り、自分の意志や判断に基づいて、自分の行為を選択し、行えるようにする。役割演技等を取り入れ、相手の立場に立って考えることができるようにする。	日常生活での問題や自己の生き方に関する課題に正面から向き合い、自分とことなる意見も大切にする。自らの力で考えよりよいと判断したり適切だと考えたりした行為の実践に向けて具体的な行動を起こせるようにする。	自分について見つめ、振り返る時間を設定し、他者との関係を主体的かつ適切にもつことができるようにする。
外国語活動・英語活動	英語に対して楽しんで取り組めるよう、目標語句や表現に沿ったアクティビティを毎時間取り入れる。発表ややり取りの場面でも、アイコンタクトや笑顔、ジェスチャーを取り入れて表現できるようにする。	英語に対して楽しんで取り組めるよう、目標語句や表現に沿ったアクティビティを毎時間取り入れる。	英語に対して楽しんで取り組めるよう、目標語句や表現に沿ったアクティビティを毎時間取り入れる。発表ややり取りの場面でも、アイコンタクトや笑顔、ジェスチャーを取り入れて表現できるようにする。	
総合的な学習の時間	(中学年)地域の自然や文化財、人に愛着をもち、活動を進められるようにする。 (高学年)探求すること、体験することを通して、課題を見出し、他者と協力して主体的に解決できるような活動をする。		各教科とのつながりを考えて学習を進める。 多くの情報の中から、課題に合った正しい情報を選択できるようにする。 調べたことを発表をする場や機会を設け、自分の考えを表現する良さを味わわせる。	各教科とのつながりを考えて学習を進める。 何をどう調べたらよいか考え、自主的に調べる活動を通して、課題解決力を身に付けさせるようにする。何を学んだのか振り返りの時間を設定する。
特別活動	行事や集団行動を通して、学級・学年・学校への所属感を高め、他者との豊かにかかわる力を育てる。	当番的な活動をしていき、少しずつ創意工夫できる係の活動を見付けられるようにする。意欲的に活動できるような行事等の取り組みをする。 基本的な生活習慣が定着するよう、また主体的な取り組みができるように、話し合い活動や学級会等で、適切な題材を設定し計画的に進めていく。個に応じた対応や家庭とも協力しながら取り組む。	様々な活動を整理統合して児童の創意工夫が活かせるような係活動として組織できるようにし、協力し合って楽しい学級生活をつくることができるようにする。 問題を自分のものとして真剣に考えることができるようにし、具体的な解決方法や目標を決めて、一定の期間継続して互いに努力できるようにする。	当番や委員会など、自分や周りの人のために働くことの大切さについて話し合い、自分の役割や責任、自他のよさを考え、友達と高めあって取り組めるように指導する。 最高学年として、学校行事やたてわり班活動では、リーダーシップをとれるように事前準備の時間を十分に確保することと、振り返りを行わせる。